

# 溶連菌感染症

2022.11.1

溶連菌とは、溶血性連鎖球菌という細菌です。

種類がいくつかあり、その中でもA群β溶血性連鎖球菌によるものが90%を占めます。

1年を通して認められますが、特に11月～7月が流行時期です。

## 症状

主な症状は、高熱やのどの痛みです。体や手足に小さく紅い発疹が出たり、舌にイチゴのようなブツブツができたりすることがあります(下記写真)。また、頭痛、腹痛、首筋のリンパ節のはれが認められることもあります。小児に多く発症しますが、成人もかかることがあります。1度かかっても繰り返しかかることもあり、まれに合併症としてリウマチ熱や急性腎炎を起こすことがあるので注意が必要です。



## 診断

簡単に診断できる迅速検査キットがあります。のどの検査で、5分程度で結果が分かります。

## 治療

- ① 細菌感染ため抗生物質を10日間内服
- ② 熱やのどの痛みを和らげる対症療法

## 登園・登校目安

溶連菌感染症は学校保健安全法により出席停止期間が定められています。抗生物質を飲み始めて24時間以上経過し、全身状態がよければ登園・登校しましょう。

## 予防

- ① 手洗い・うがいをしましょう
- ② 家庭内ではタオルや食器など別々に使用しましょう
- ③ 外出時はマスクを着用しましょう

医療法人 KLC ファミリーランドクリニック南大高

参考文献:タウンズ 溶連菌ってなあに?

